

令和4年度第1回 感染症発生動向調査部会

令和4年4月20日

月番：馬場 尚志（感染症全般）、石山 俊次（STI）

1 前月の感染症発生動向について（2022年第9週～13週・3月）

<全数把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 結核は毎週報告あり（本年累計の対前年同期比 87.5%）、発症者の中心は高齢者ではあるものの、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代に各1例ずつ報告あり。0歳の潜在性結核感染症が2例あり。
- ・ レジオネラ症が第9週に2例報告あり。
- ・ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が第11週に2例報告あり。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症は4例報告あり、いずれも70歳以上の高齢者であった。
- ・ 梅毒は12例報告あり。うち11例（早期顕症8例、晩期顕症1例、無症候2例）が男性で、女性は無症候例1例のみであった。本年の累計数では対前年同期比210%、対2019年同期比123.5%と増加している。

（STI）

- ・ 後天性免疫不全症候群：本年第1例（30歳台男性無症候性キャリア）の報告があった。前年同期累計は4例で、対前年比は25.0%であった。コロナ禍前2019年の同期累計も1例であったことから、減少傾向とは判断できない。
- ・ 梅毒：本年累計の男女比は3:1（2021年4:1、2020年2:1）で、コロナ禍前に比べて女性の比率が減っており、行動変容と関係があるのか興味深い。

<定点把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 今シーズンもインフルエンザの流行はみられなかった。
- ・ RSウイルス感染症は岐阜圏域を中心に期間中136例の報告あり（前月比270.7%、対前年同期比13497.4%、対前々年同期比283.3%）。週別には第11週が最も多かった。
- ・ 感染性胃腸炎は684例報告され、前月比は82.9%と減少傾向であるが、対前年同期比315.7%、対前々年同期比191.1%である。

（STI）

- ・ 性器クラミジア感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症において、前年同期累計と比べ男女とも減少傾向がみられている。今後の動向を注視したい。
- ・ 性器ヘルペスウイルス感染症は著変なし。

2 検討すべき課題

- ・ 梅毒（特に早期顕症）における背景要因、増加について（継続）
- ・ 0歳児における潜在性結核感染について
- ・ ロタウイルスワクチンの定期接種化（2020年10月）の効果に関する評価について

3 情報提供すべき事項

- ・ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について
 - 昨年、愛知県で初の報告例あり
 - 5月～10月に報告数が多い傾向あり
 - ダニ媒介性感染症、人獣共通感染症としての側面

4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・ 令和4年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定
 - A（H3N2）とB（ビクトリア系統）の2つが新たな株に変更された
- ・ 新型コロナウイルス感染症の体外診断用医薬品（検査キット）の承認情報について
 - 厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_11331.html など

5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 令和4年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について（通知）
- ・ 予防接種法施行令の一部を改正する政令及び新型インフルエンザ予防接種による健康被害の救済関す特別措置法施行令の一部を改正する政令の施行について（施行通知）
- ・ B型肝炎ワクチンの供給見込みについて
- ・ ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種に関する相談支援・医療体制強化のための地域ブロック拠点病院整備事業の実施機関の決定について

<検討結果>